

特別支援教育について保護者や小学校教諭らが話し合った学習会＝新潟市の県立生涯学習推進センター



特別支援教育
新潟市生涯学習推進センターで開かれた学習会。保護者や小学校教諭らが話し合った。

発達障害の子の教育は？

発達障害がある子どもへの教育を考える「親と教師のための学習会」がこのほど、新潟市の県立生涯学習推進センターで開かれた。同市自閉症親の会が主催。同市内外の親や小学校教諭ら約六十人が参加し、今後の特別支援教育の在り方について意見を交わした。

学校独自の組織を

担任だけに押しつけず

新大助教授
長沢氏講演

新潟で学習会

学習会では、障害児教育に取り組む新潟大学の長沢正樹助教授が講演した。

長沢助教授は「担任に負担がかかりすぎないようにするためにも、まず校長が意義を理解し、自校なりの組織をつくるべきだ」と強調。保護者に

「権利意識を持って学校側に支援を訴えて」と呼び掛けた。

「子どもが充実した生活を送る上で、自立生活や余暇の楽しみ方を学ぶのは重要」とした上で、

「買い物や料理などの手伝いは、自分が家族の役に立つ」という感覚を

はくむ。早い時期からやらせてほしい」と語った。

参加者によるディスカッションも行われ、教育進捗の評価について「現場の先生が忙しいのは事実。親が表を作り先生が丸を付ける」といった方法で、学校と毎日やり取りした」などの実践例が話し合われた。

文部科学省は、通常学級に在籍する児童・生徒のうち、支援が必要な子どもは約6%と推定。県

内での対象者数は、調査が行われていないため不明だ。

参加した三条市立三条小学校の鈴木啓一郎教諭（三）は「教師の保護者に対する説明責任は、今後重みを増してくる。親の会や別の町の教師とも、情報交換を進めていきたい」と話していた。